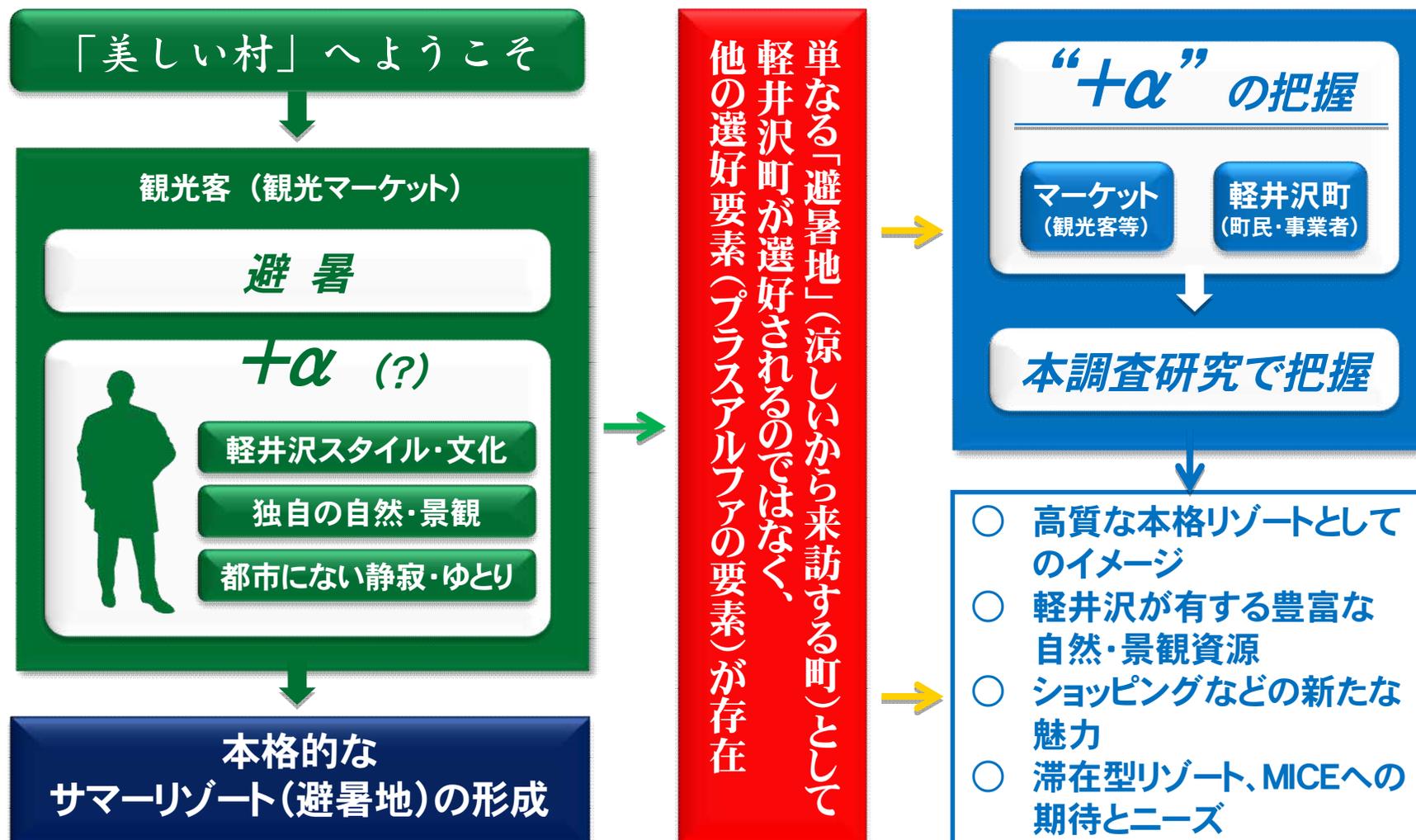


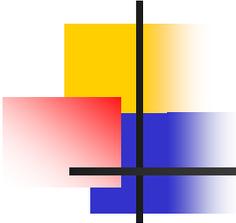
軽井沢町観光振興調査研究 (概要版)

平成 24 年 3 月

軽井沢町
財団法人 地方自治研究機構

マーケット調査等から得られた調査結果





転換期にある軽井沢町観光

■ 地域間の競争の激化

- 観光立国の推進に伴い、全国で観光振興を通じたまちづくりが活発化
- インバウンド、B級グルメ等の誘客をめぐる激しい地域間競争の展開

■ 軽井沢町ブランドの再構築

- 軽井沢ブランドの多極化・希薄化等

■ 地域資産の保全と継承

- 貴重な歴史・文化・景観等の地域資産の消滅の危機への適切な対応

■ 町としての一体的なまちづくりの強化

- 町内各エリア、多様な産業分野が一体となった取組

■ 観光振興における新たな主体（町民やNPO等）の参画

- NPO、住民の自主的な活動が増加

“原点”と“新たな可能性”を見すえた 「美しい村」の継承・発展

■ 軽井沢町の観光ビジョン:

「美しい村」の意義

- 昭和8年、堀辰雄が「美しい村」を発表
- 描かれているのは、昭和初期の美しい村風景と外国人・町外者の新しいライフスタイル
- 現在、軽井沢の観光ビジョン「『美しい村』へようこそ」に
- 今後は、「美しい村」の継承・発展が重要

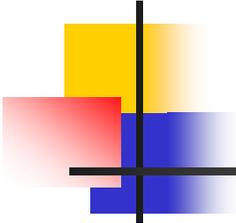
■ 軽井沢町の“原点”に立脚する

- 宿場町・避暑地としての伝統・実績を活用
- 旧軽井沢地区、別荘地区を中心とした独自の滞在型リゾートの形成

■ 軽井沢町の“新たな可能性”を追求する

- 独自の軽井沢スタイルを発信してきた町の取組の継続
- 新たな観光文化、リゾート文化の発信等





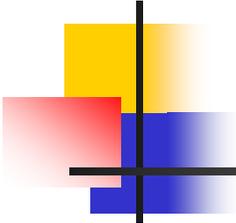
観光振興の目的

■ 観光振興を通じた3つのリゾート形成へ(将来ビジョン)

- ① 軽井沢町の“原点”に立脚した「高質なリゾート」の形成
- ② 軽井沢町の“新たな可能性”を活かした「先進的なリゾート」の創出
- ③ 独自のホスピタリティを確保した「豊かなリゾート」の実現

■ リゾート形成に向けて活用すべき3つのブランドカ(コンセプト)

- ① 伝統的リゾート地の強みの活用 (トラディショナル)
- ② 革新性の高い軽井沢スタイルの活用 (イノベーション)
- ③ 高級・上質な地域イメージの活用 (ラグジュアリ)



観光振興の基本方針

■ 基本方針

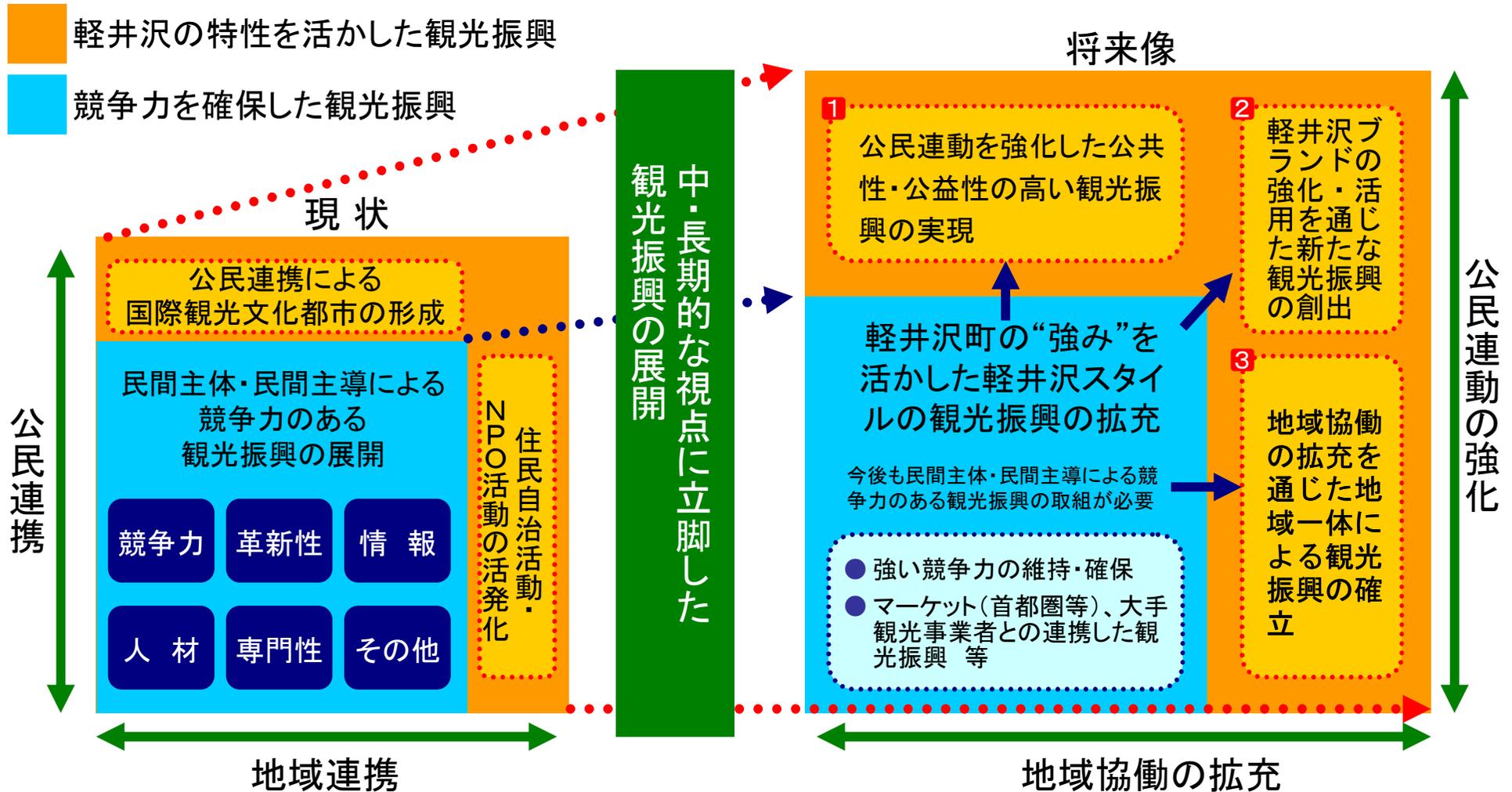
- 中・長期的な視点に立脚した観光振興の展開へ
- 軽井沢町の“強み”を活かし、一般観光地との差別化を図る観光振興の拡充へ（軽井沢スタイルの観光振興）
- 町全体に交流効果、経済効果がもたらされる観光振興の推進へ

■ 基本目標

- ① 公民連動を強化した公共性・公益性の高い観光振興の実現へ
- ② 地域協働の拡充を通じた地域一体による観光振興の確立へ
- ③ 軽井沢ブランドの強化・活用を通じた新たな観光振興の創出へ

観光振興の方向

軽井沢の強みを活かした軽井沢スタイルの観光振興を拡充



① 公民連動を強化した 公共性・公益性の高い観光振興の実現へ

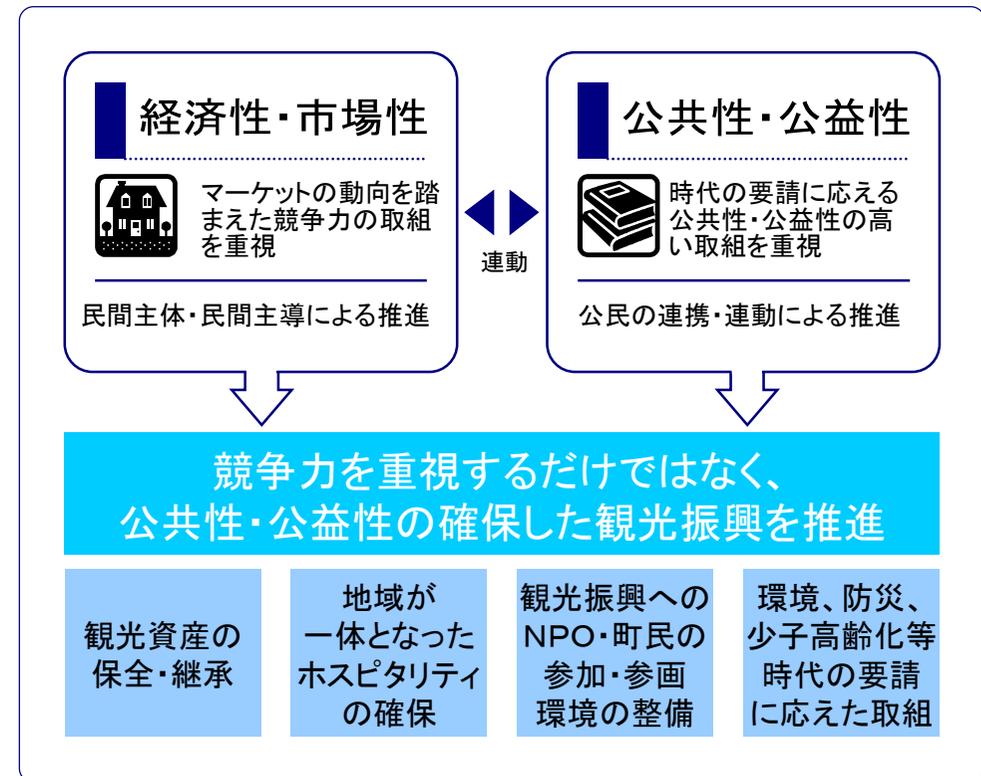
- 軽井沢町独自の地域資産・観光資産の保全と継承
- 時代の要請に対応した先進リゾートの形成
- **ホスピタリティを高めた滞在型リゾートの実現**

① 目的

- 公民の連動した取組を通じて、観光振興のなか
に公共性・公益性を高めた取組を拡充
- 特に活用の観点からだけでなく、軽井沢町の
貴重な観光資産、地域資産を次代に保全・継
承していく取組を強化

② 具体的方策

- 観光エリア別の保全・継承、開発に係る方針及
びスキームの検討
- NPO、町民等も参画した軽井沢独自のホスピ
タリティの確保
- 観光振興の視点に環境、防災等の配慮を強化



② 軽井沢ブランドの強化・活用を通じた 新たな観光振興の創出へ

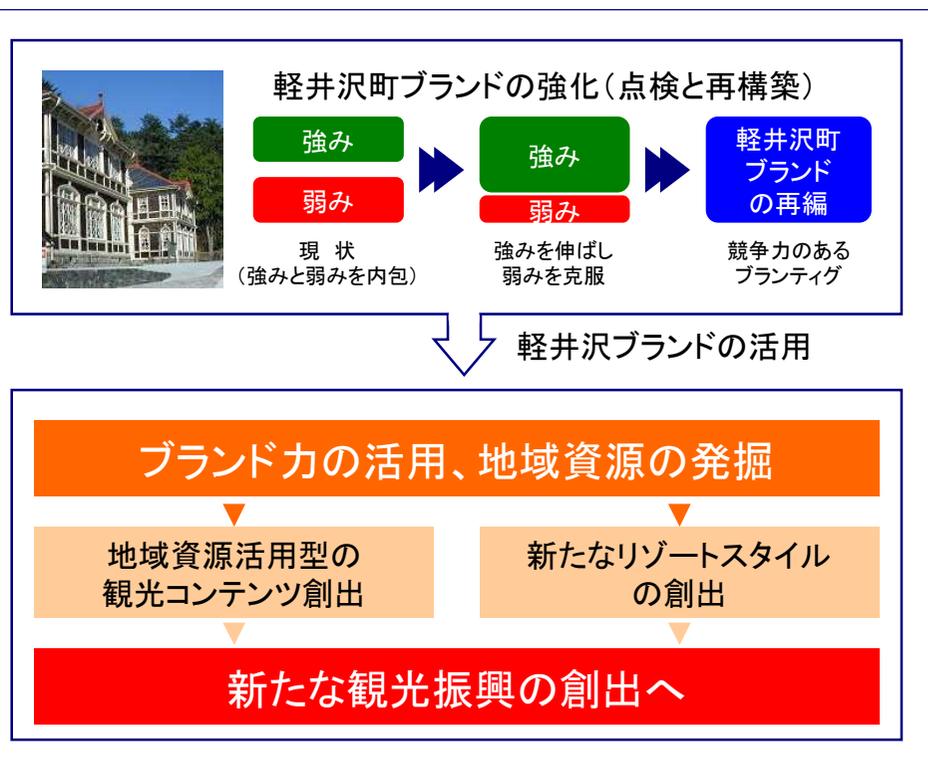
- 長期的視点に立脚した軽井沢町ブランド戦略の再構築
- ブランド活用による地域資源活用型の観光コンテンツの創出
- ブランド活用による新たなリゾートスタイルの創出 **（リゾート会議都市の推進等）**

① 目的

- 点検と再構築を通じた軽井沢町ブランドの強化
- ブランド力を活用した新たな観光振興の創出
- 地域資源活用型の観光コンテンツの創出
- 新たなリゾートスタイルの創出

② 具体的方策

- 軽井沢町ブランド戦略の策定と住民等町全体での共有
- スポーツ、ショッピング等の新規コンテンツ創出
- 国際会議の誘致や首都圏の企業系オフサイトミーティング等を対象にしたMICEの導入



③ 地域協働の拡充を通じた 地域一体による観光振興の確立へ

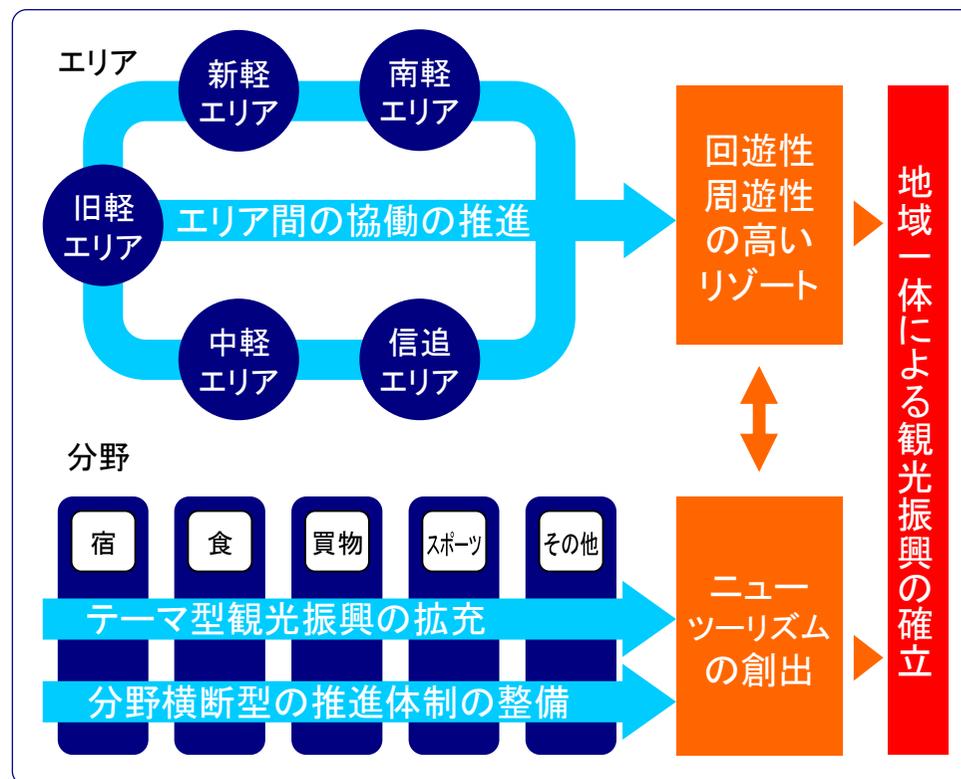
- 観光エリア間の協働を高めた回遊性・周遊性の高いリゾート形成
- テーマ型観光振興に向けた検討体制の構築
- **ニューツーリズムの拡充による豊かなリゾートの実現**

① 目的

- 観光振興における地域協働の取組みを進め、一体性の高いリゾート形成を推進
- 特に、観光エリア間の連携、分野間の連携等を拡充し、ニューツーリズムをはじめとする豊かなリゾートを実現

② 具体的方策

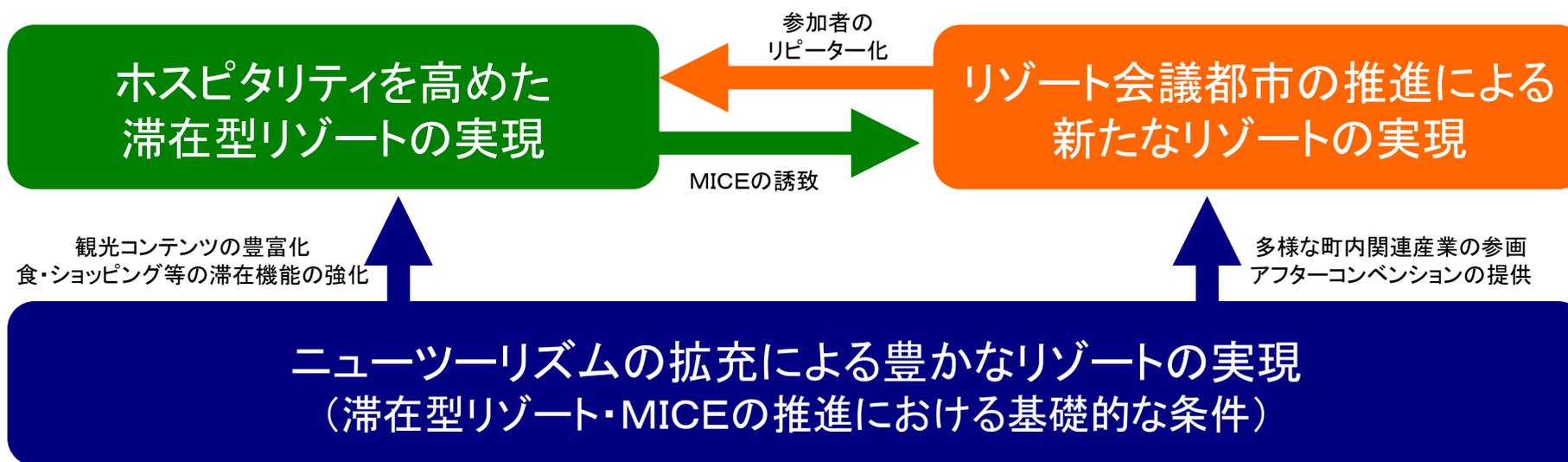
- 集客力のある旧軽井沢エリア、新軽井沢エリアと他エリアとの周遊・回遊環境の整備(二次交通:タウンループバス、観光タクシー等の整備)
- 地域協働の取組を通じて、テーマ型観光を拡充
- 地域協働に向けた参加・推進体制の構築

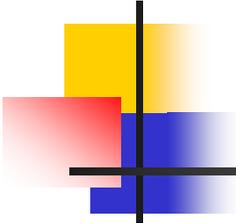


観光振興における重点分野

■ 今後の具体的な取組としては、3つの重点分野の実現に向けた取組の拡充が必要

- ① ホスピタリティを高めた滞在型リゾートの実現
- ② リゾート会議都市の推進による新たなリゾートの実現
- ③ ニューツーリズムの拡充による豊かなリゾートの実現





観光振興の取組手法と条件整備

■ 振興に向けた3つの取組手法が必要

- ① 次代に向けた創客の推進
- ② 観光振興・リゾート形成に向けた担い手の多角化
- ③ 地域資源の活用による観光資源の新規創出

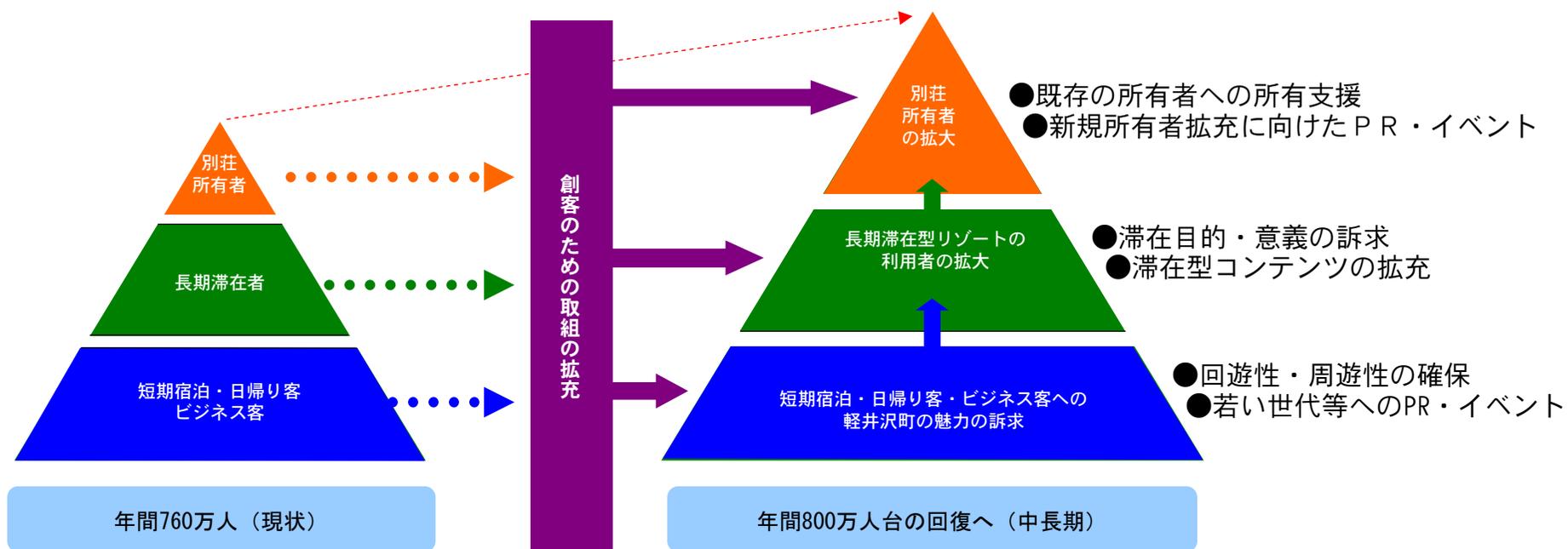
■ 観光振興に向けた町内の条件整備

- ① 中・長期の視点に立脚した観光振興ビジョン・プランの確保
- ② 誘客に向けたプロモーション、イベントの再編
- ③ 観光振興に向けた新たな推進体制の確保

取組手法①

次代に向けた創客の推進

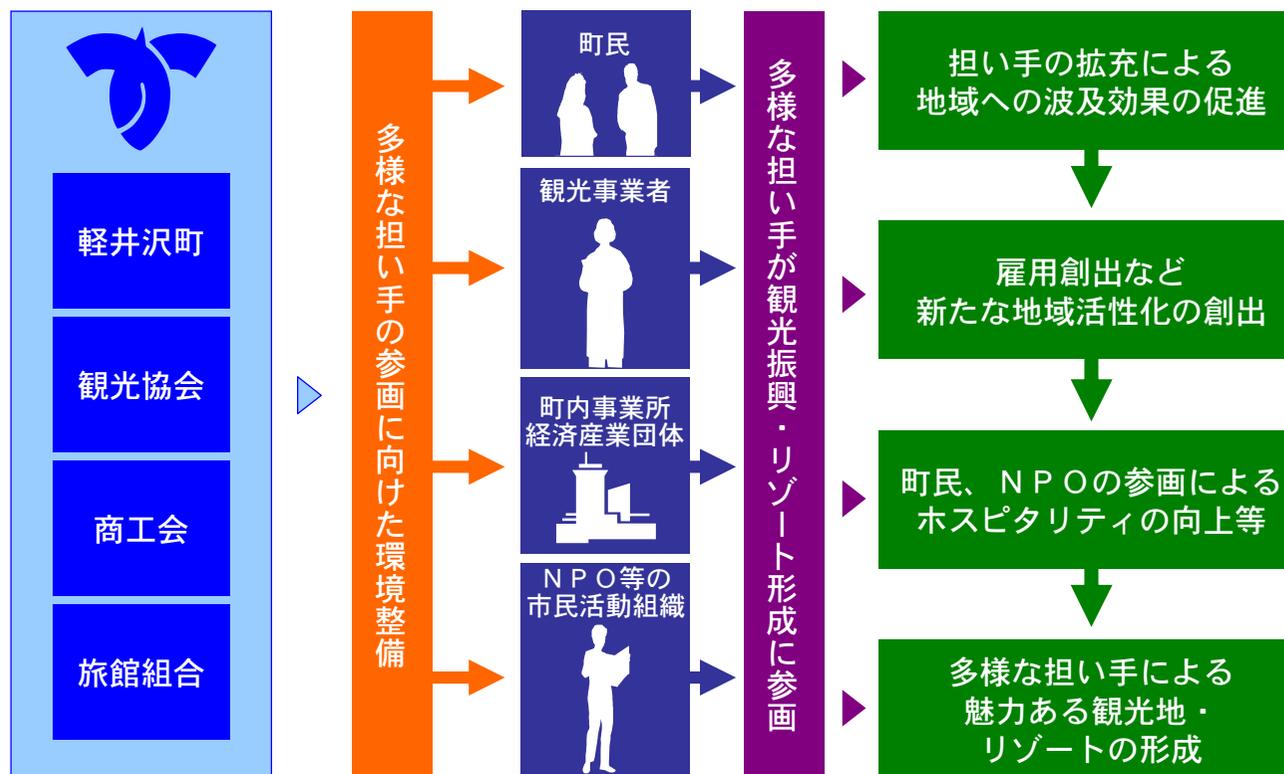
- 誘客だけではなく、中長期的な視点から創客づくりを推進
- 短期滞在・日帰り客、ビジネス・出張客を長期滞在者にするためのプロモーション、イベント等を拡充
- 創客手法としては、エリア間の観光回遊性・周遊性を高め、軽井沢の魅力訴求、ウェディング、スポーツなどのニューツーリズムを活用した若い世代の誘客、MICEの促進を通じた参加者のリピーター化等



取組手法②

観光振興・リゾート形成に向けた担い手の多角化

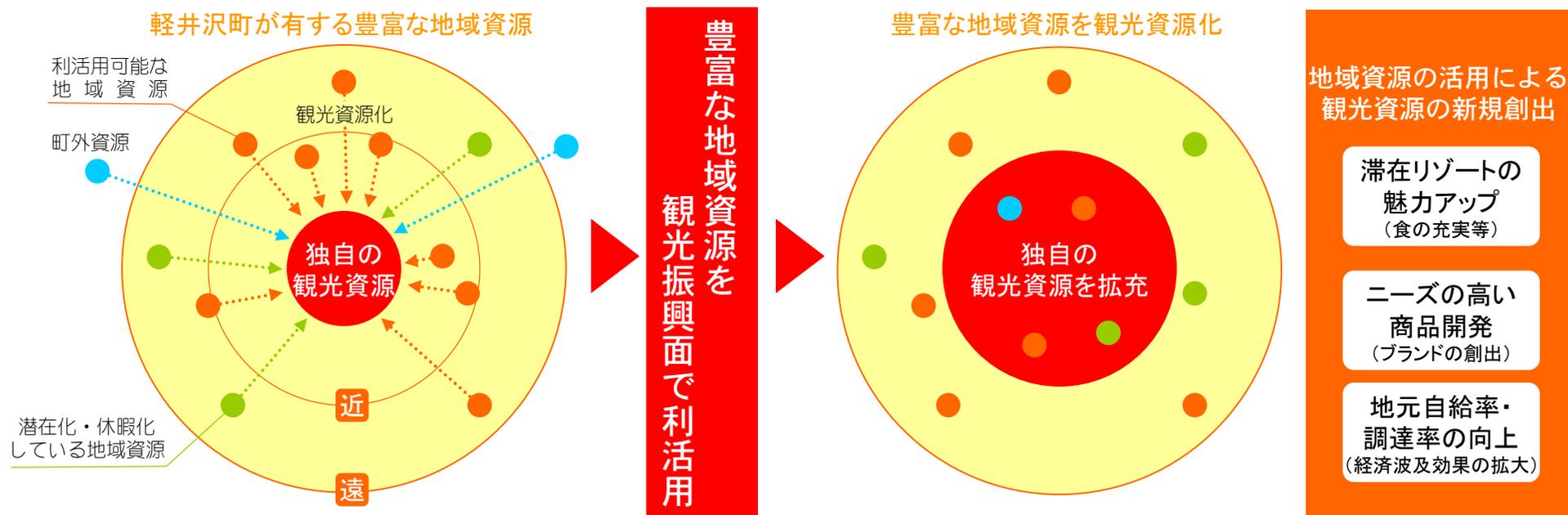
- 町、関係団体等の連携による多様な担い手の参画に向けた環境整備を推進し、新たな担い手が観光振興・リゾート形成に参画
- 担い手の拡充を通じ、地域への波及効果の促進、新たな雇用の創出、地域ホスピタリティの向上、魅力ある観光地・リゾートの形成等を実現



取組手法③

地域資源の活用による観光資源の創出

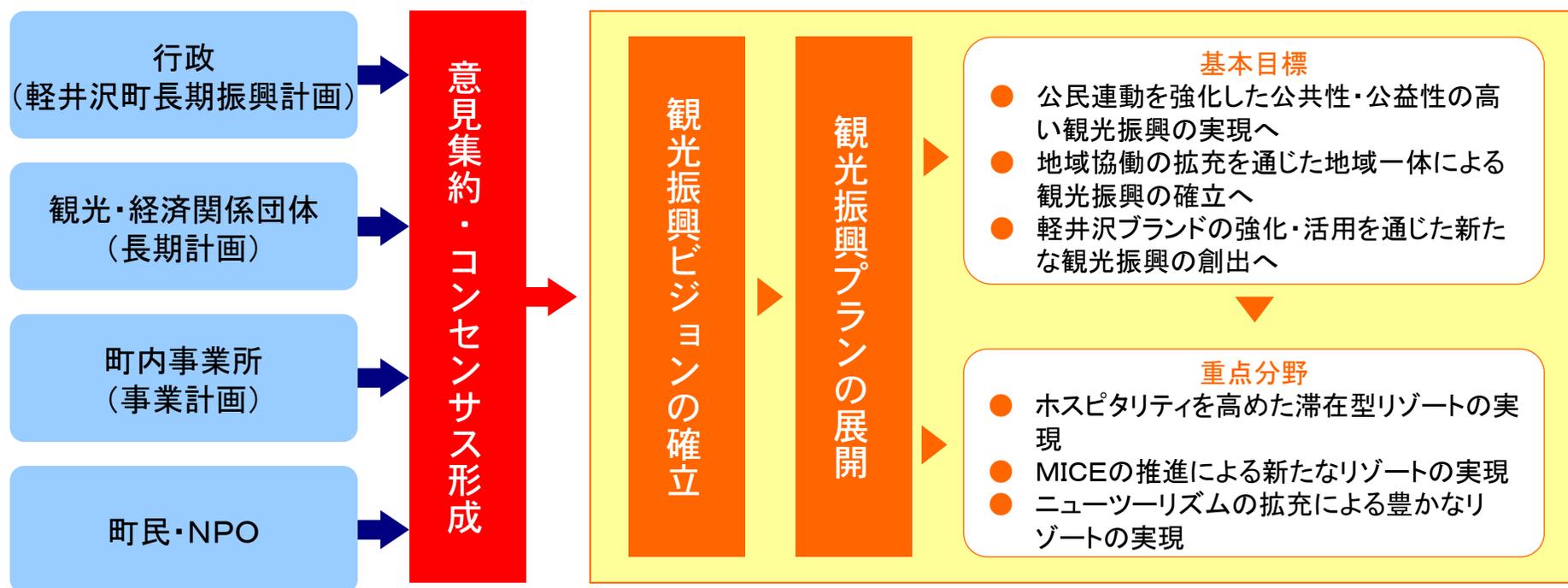
- 地域資源の拡充・活用による独自の観光資源の拡充
- 観光資源の新規創出の方向性としては、滞在リゾートの魅力アップ、ニーズの高い商品開発、地元自給率・調達率の向上等



条件整備 ①

中・長期の視点に立脚した観光振興ビジョン・プランの確保

町長期振興計画と連動し、町民をはじめ観光協会、商工会、行政等が共通の課題認識、将来ビジョンを確保した観光振興の取り組みを進めていく観点から、町の観光ビジョン・プランの策定が必要



誘客に向けたプロモーション・イベントの再編

■ 今後の観光イベントについての考え方

- 若葉まつり、紅葉まつり、ウインターフェスティバルは一定の集客・評価を得ているが、マーケット調査の結果では、全体的に認知度・関心度が低い
- 3つのイベントを構成する個別のプログラムを検証し、費用対効果、観光ニーズ等を踏まえ、プログラムの再編・統廃合が必要
- 大きな集客効果、宣伝効果がみられたイベント・プログラムについては、観光コンテンツ化を進め、ニューツーリズムの展開方策等での活用を進めていく(スポーツツーリズム、健康ツーリズム等)
- 地域で分散して開催されている類似のイベント、プログラム等は、観光ニーズ等に対応させるとともに、知名度・魅力度を向上させる観点から、集約化・総合化・大規模化を図って実施することも検討

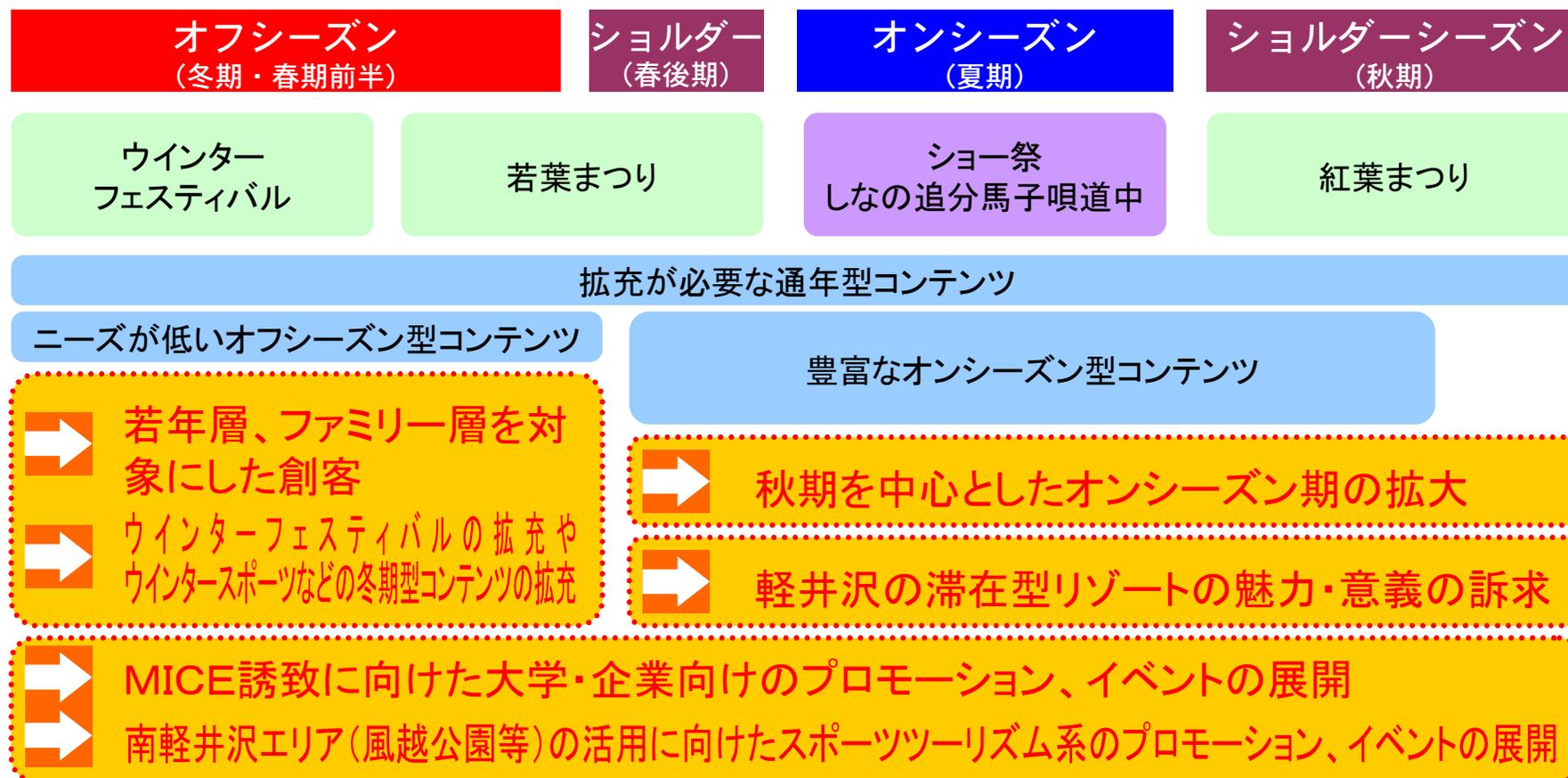
■ 今後の観光プロモーションについての考え方

- 北陸新幹線の延伸に伴い新たな観光マーケットが登場
- MICE、ニューツーリズム等の新たな観光振興方策に対応したPRが必要
- 観光の国際化、ネット型社会の進展に対応した新たな観光PR手法の導入が必要
- ブランド戦略に基づくPRの推進とともに、個別のエリア別、分野別のPRの強化
- ICT等を活用した新たなPR戦略・手法の検討(インターネットを活用した商品販売、Twitter、ブログを活用した情報発信等)
- 国際観光に対応したPRの強化(外国語による情報発信、外国語ガイドブックへの掲載(ミシュラン等))

条件整備 ②

誘客に向けたプロモーション・イベントの再編

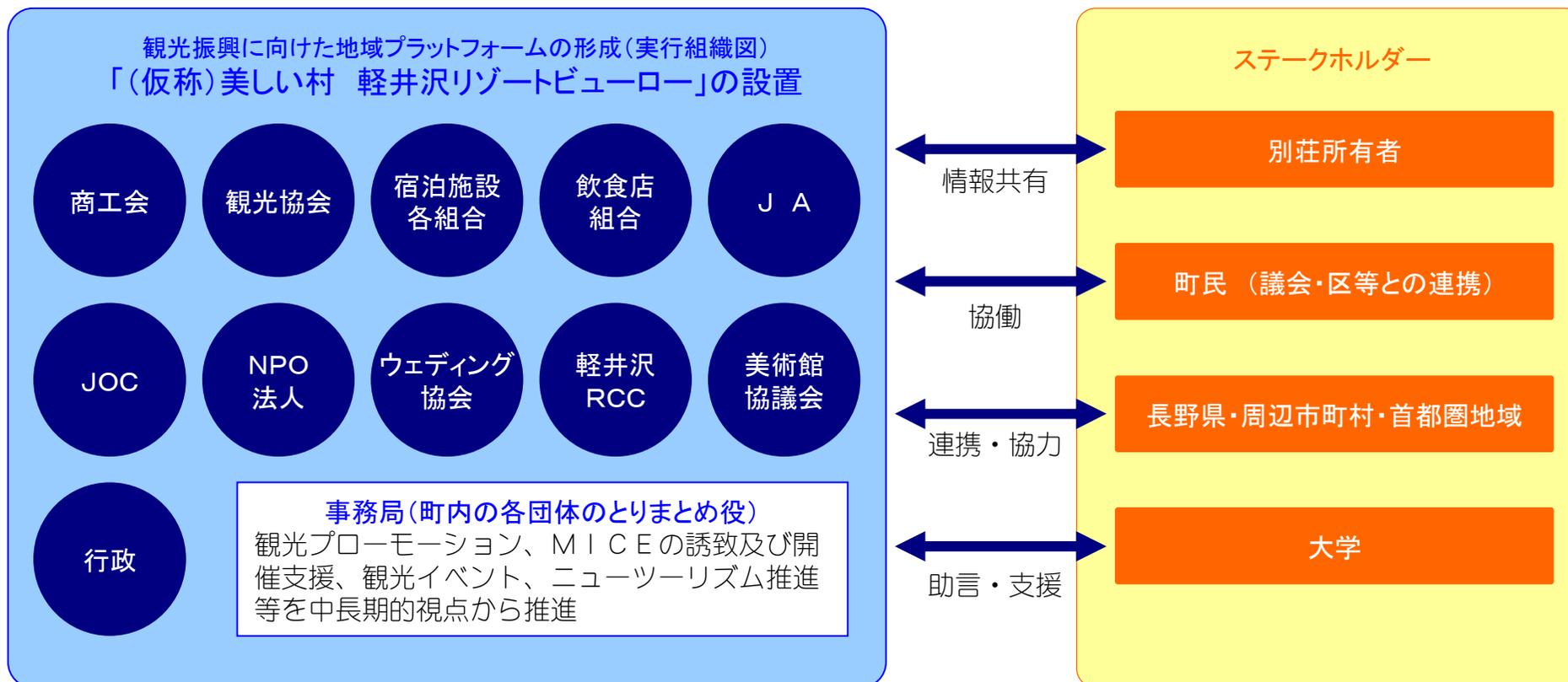
■ シーズン別にみた観光振興・誘客・創客の視点から、観光プロモーション・イベントの再編が必要



条件整備 ③

観光振興に向けた新たな推進体制の確保

- 観光振興に向けた地域プラットフォームの整備イベントの再編
- 観光振興に向けた新たな推進体制の確保

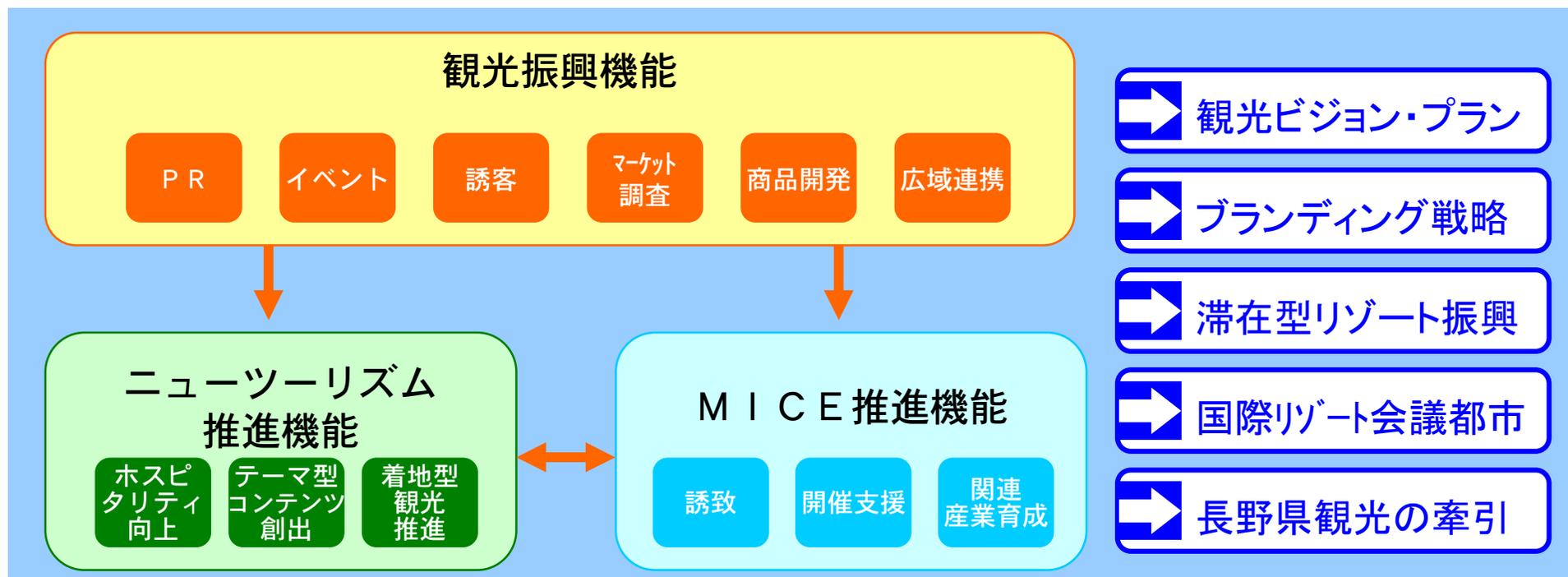


条件整備 ③

観光振興に向けた新たな推進体制の確保

新たな推進体制に求められる機能

- 観光振興機能 (①プロモーション、②イベント、③誘客、④マーケット調査、⑤商品開発、⑥広域連携)
- ニューツーリズム推進機能 (①ホスピタリティ向上、②テーマ型コンテンツ創出、③着地型観光推進)
- MICE推進機能 (①誘致、②開催支援、③関連産業育成)





この報告書は再生紙を利用しています。